

公立中高一貫校
レポート #01

東京都立 武蔵高等学校 附属中学校

〔東京都武蔵野市〕

生徒の創造性を伸ばす「地球学」が確かな 学習効果ももたらす、多摩地区有数の進学校

2008年に併設型中高一貫教育校として新たに開校した、東京都立武蔵高等学校附属中学校は、高校の前身である東京府立第十三高等女学校の設置から数えると、78年の歴史を誇る伝統校。武蔵野の緑豊かな風土にも恵まれる、素朴で明るい校風が自慢だが、カリキュラムにも入念な工夫を凝らし、地球規模でものを考えられる、好奇心豊かな生徒を育てている。

取材・文／鈴木隆祐 撮影／編集部・鈴木隆祐
デザイン／タケウチフミヒロ (landfish)

学校を象徴する「結い」農業体験学習

都立武蔵高校と同附属中学の校門をくぐると、右手花壇の手前に青いバケツがいくつも並んでいた。覗き込めば、青々とした苗が植えてある。同

中学では独自のカリキュラム、「地球学」の柱となる農業体験として、新潟県十日町市で田植え体験を行う。その際に一部の苗を持ち帰り、学校でも育てているのだ。同校ではこの行事を「『結い』

ちょうど一反という広さの田んぼで2グループが田植えをする。一直線に苗を植えるのは初心者にはなかなか難しいが、念入りの事前講習もあって、生徒らはそつなくこなしている。



基本データ

沿革
1940年：前身の東京府立第十三高等女学校創立。
1941年：現校地に移転、東京府立武蔵高等女学校と改称。
1949年：東京都立武蔵女子高等学校と改称。
1950年：東京都立武蔵高等学校と改称、男女共学開始。
1952年：学区合同選抜制度導入。
1967年：学校群制度発足。三鷹高校と74群を組む。
1982年：グループ合同選抜制度導入。同時に学区改編が行われ、第9学区・91グループに編成される。
1994年：単独選抜となる。
2002年：新校舎完成
2003年：新グラウンド完成
2008年：併設中学を3クラス編成、併設型中高一貫制となる。

校長 高橋 豊

所在地 東京都武蔵野市境 4-13-28

交通 JR中央線・西武多摩川線「武蔵境」駅北口下車徒歩10分

出身者名人 是枝裕和(映画監督)、田中泯(舞踊家・俳優)、奥寺健(フジテレビアナウンサー)、岩下志麻(俳優)、河原崎長一郎(俳優)、樹林伸(漫画原作者)…etc.

体験学習」と呼んでおり、2年生で実施する。
“結い”とは小集落や自治体における共同作業の制度。田植えや屋根の葺き替えなど、農村社会には単独で行うには多大な労力と期間、そして費用のかかる作業が多い。しかし、集落の住民が総出で協力し合って手助けをすれば、いっぺんに片がつく。日本では中世以前から行われてきた、そんな風習が結いなのだ。

こうした相互扶助の精神はとかく大都会では見失われがちだが、これからの教育の軸ともなる「総合知」を豊かに育てるコンセプト。地球全体について考えるにも、まず日本社会の原点である農村から学ぼうと、都立武蔵は年間50時間ある「総合学習」枠の活用のため、この結いを柱に立てた。同中学高校の高橋豊統括校長は今年着任3年

平成30年度一般枠募集 志願状況

〈平成30年1月19日〉

中学で3クラス、高校で1クラスを募集する。公立受検のわかブームは一段落したが、相変わらず4.46倍という狭き門。前年より倍率が増加し、特に女子の人気が高く、偏差値も上がっている。

	募集人員	応募人数
男子	60	295
女子	60	240
合計	120	535

先生は極力教えず、生徒同士が教え合う

目だが、さる5月に初めて結いに自身も同行。撮った写真を見せながら、その仔細を語ってくれた。
「2泊3日で中日に農業体験をします。900平米くらいの田に2クラスが入り、1mくらいの間隔で縄を張った間に3列ずつ苗を植えていくんですが、みんな初めてなのに上手いもんでしょう。また、3地区に分かれて民泊をするんですが、ステイ先でのお手伝いもします。老夫婦だけという農家が多く、働き手としてかなり当てにもされていて、『ぜひ武蔵の子に来てほしい』といったオファーもあります(笑)」

田植えに取り組むにもまずは周辺環境の理解からと、初日には溜め池で水中生物観察もし、生徒

高2生物。複雑な目の構造を時に体感させながら、難解な用語を丸暗記させるのではなく、「友達に説明できる」よう自ら考えて理解させる



がすくったタガメやヤゴなどを識別しては、十日町の里山科学館「越後松之山森の学校キョロ口」の学芸員が解説もしてくれる。そして、草笛を作っては演奏を楽しむ。普段触れることのない大自然の営みに心を躍らせながら、生徒たちはおいしい米がいかに豊かな土壌で育まれるかを知る。

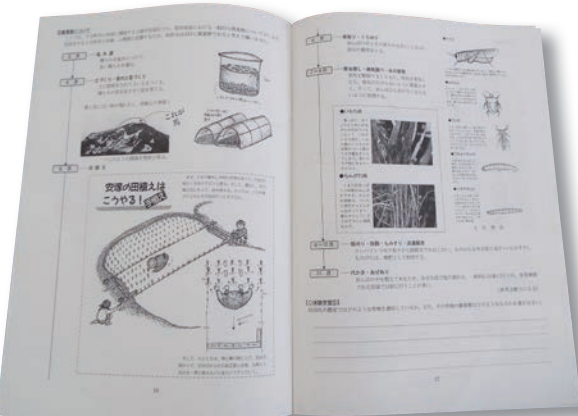
里山農業から地球環境にアクセス

3期生からすでに、この結いに取り組んでいるのが地理を教える清水大介主幹教諭。毎年なんらかの変化を加えつつ、ここまで企画を進めてきたが、昨年から生物担当の山藤旅聞主任教諭も加わり、いっそう総合的な探究の色彩が濃くなった。「事前学習には日本大学の宮地忠幸准教授も参加し、生徒にレクチャーをしてくれます。宮地准教授は中山間地域農業研究の第一人者。十日町は日本有数の豪雪地帯。美しい棚田や『里山農業』でも知られています」と清水主幹教諭。そんな十日町に生徒らを連れて行くことには、単なる農業体験以上の意義が認められる。高橋校長も、「地球学には本校の目標が多く詰まっている」と語る。それは「一つには文章を読み解き、資料を見なが

学習進路部主任の清水大介主幹教諭



「結い」は地理と生物を中心とした教科横断的な試み。しおりを開くだけでそこに多義的な目論みがあると即座に理解できる。中1でも尾瀬にサマーキャンプに出かけ、同様に自らに課題を出す体験学習をする。



農村での共同作業、「結い」から地球を考える総合的な学習の時間

ら分析して考察する力、さらにリーダーとして貢献する力」。

この地球学では1年のうちは基礎、2年は発展、3年では個人課題研究と位置づけている。すなわち、中1・2段階では広範囲に環境や社会問題について少人数で深く学んだうえで、中3では卒業研究として、各人が興味・関心のあるテーマを選んで論文を作成し、発表する。それには、文献を複数読んでまずテーマを設定し、アンケートやインタビュー調査をし、あるいは実験や観察をし、グループワークでディスカッションなどもしたうえで、研究に落とし所をつけねばならない。その動機づけとプロセスへの示唆が、結いの学習シートには端的に見て取れた。そもそもの校是である、「向上進取」と「奉仕」の精神が横溢した学校行事だと言えよう。

「その後の田の面倒を見るのも、収穫も現地の方任せになりますが、米は一人1kgずつ自宅で食べるよう送られてきます。お礼状がきっかけで家族同士、交流を続ける生徒も多いようです」

こうして少子高齢化が一足飛びに進み、過疎化する一方の農村の実情にも生徒は否応なく接する。結いは稲だけでなく、他者への慮りをも育てているのだ。

武蔵野の地域性が寛容さを生む

中・高各学年の教室を同じフロアに配置するのも同校独特のシステムだ。高橋校長は「そこにも教育的効果がある」と語る。

「中学生は高校生を間近に見て過ごすことで、先輩への憧れが強くなるようですね。音楽祭や文化祭などの行事なども中高一緒に行うため、高校生は中学生のお手本にならねばと張り切ってもらっている。私は23区内の学校への赴任が多かったんですが、元々の地域性というのは感じますね。こちらの生徒はおっとりしていて、男女の仲もとてもいい。だから1学年全員、120名の仲間の保護者にアンケートを配る—なんてこともする生徒がいる。また、内進生のほうから関わり、高入生とも上手く溶け込んでいますよ」



「教師や大人がいなくても学び続ける子」を育てたいと、独特の「教えない授業」のメソッドを実践する山本指導教諭の中1英語。2年前に両国高から異動し、同僚教師にも大いに刺激を与えている。

同校はJR中央線の武蔵境駅から至近だが、郊外ののんびりした雰囲気の中、生徒たちもみんな和気藹々と授業に取り組んでいる—といった印象を強く受けた。中学のうちは「図書館以外の登下校時の寄り道は禁止」と規律正しく、制服もあるが、高校では校則も取り立ててなく、私服通学が許される自由な校風も維持。そのメリハリが生徒の自主性の発揮をいっそう促しているようにも思える。亜細亜大学も近く、買い物や食事にも便利で、八重洲ブックセンターや文教堂のような大手書店チェーンも駅の南口にはある。中高とステップを踏んで学ぶのには、打ってつけの環境と言える。「都立も上位校はどこもカリキュラムが多いんですが、SDGsにここまで取り組んでいる学校は他にないんじゃないかな」とも高橋校長。SDGsは英語の“Sustainable Development Goals”の頭文字を取った言葉で、「持続可能な開発目標」と訳す。世界が抱える課題を解決するため、国連が2015年の総会で採択し、30年までに世界が取り組むべきと定めた17のゴールのことだ。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を進めよう」「働きがいも経済成長も」…等が目標として掲げられるが、それぞれさらに細かいターゲットに分けられ、その数169項目にも及ぶ。

国連 SDGs への先駆的取り組み

このSDGs関連で積極的に活動し、朝日新聞

の記事にも大きく取り上げられたのが山藤主任教諭。昨年10月前半には、武蔵高1年の生徒全員がSDGsの目標をカードゲームでまず疑似体験。その後は付近のフィールドワークから、「ノン・サステナブル(持続可能社会に悪影響を与える)」な事物を発見し、記事にまとめて上級生や家族などに伝えるという課題をこなした。

そう遠くない将来、白熱電球もガソリン車もエコではないために無用とされるだろう。また、サステナビリティを妨げる法やシステムの改善も見られるはずだ。しかし、山藤主任教諭は結論を急がず、「まずこの考えを広めるべき」とのスタンスで、授業のデザインを行い、他校への出前授業なども実践している。そして、この朝日新聞との連携授業にも至った。

山藤主任教諭の高2生物の授業を目の当たりにすると、座学とはまるで異なる、アクティブ・ラーニングの力を実感させられる。生徒は4人単位で机を向かい合わせ、プロジェクターに投影された眼球の構造図を見ながら、便覧に即したプリントに用語を書き込みつつも、仲間と盛んなディスカッションを同時に展開している。板書にも「目の問い」と記され、グループごとに代表が教壇に立って、めいめいの疑問を書き上げていく。生物がただの暗記科目ではないことが、そこからだけでも伝わってくる。

山藤主任教諭の解説は控えめだが、そうやって地均しされると、クリスタリン(水晶体内のタンパク質)や桿体細胞(網膜上の棒状の視細胞)といった難解な用語もスラスラ頭に入ってくる。そして、「グラフの意味を友達に説明できる?」といった問いかけが、学びが決して自己完結的なものではないことを知らしめる。この気づきと問いかけの連鎖の中に本物の学びがある。

岸田外相の言を借りれば、「地方を含め日本を元気にし、世界を元気にする取り組み」がSDGs。武蔵中の地球学における結いはまさにその発端になっている。高橋校長も「結いでも今後

生徒たちの食いつきが違う、中1英語での導入のビンゴ

はもっと現地の方の視点からの授業をし、積極的な意見交換もできるようにさせたい」と意気込むが、SDGsという目標を早い段階から意識させることで、その速やかな実現も可能だろう。

**生物の授業から
人類の幸せを考える**

2030年には今の中1が25歳になり、すでに社会人。高3ともなれば、30代に突入し、働き盛りを迎える。地球学を一つの旗頭と定めたことで、都立武蔵にはSDGsを受け容れる素地がすでに生まれていた。山藤主任教諭は都立両国高校から武蔵の公募に応じ、転入して来たという。

そこで山藤主任教諭もNHK 高校講座「生物基礎」の監修並びに講師も務め、東京書籍による教科書の執筆者の一人でもあるが、武蔵にはそうした校外での活動でも知られる名物教員が多数いる。

『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』という著書もある、英語の山本崇雄指導教諭は三省堂の教科書「New Crown English」シリーズの編集委員。やはり前任校は両国高校と附属中だった。そこで講義型の一斉授業から「教えない授業」にシフトしたのが8年前。中1生が高校を卒業するのを見届け、2年前に武蔵に移って来た。

山本指導教諭の授業も山藤主任教諭同様、アクティブ・ラーニング（AL）の手本とされ、見学も多いそうだ。授業を実際に見ると、プロジェクトでそのルールが映し出されている。

1. Listen, speak, read, write and move. (聴き、話し、読み、書き、そして動こう)
2. Enjoy making mistakes. (失敗を楽しもう)
3. Say "Thank you" when your friends do something for you. (友達がなにか自分のためにしてくれたら、「ありがとう」と言おう)



都教委から英語教育推進校の指定も受ける武蔵。毎年3月には高1を対象にオーストラリア語学研修も行われる。その高1のコミュニケーション英語も、ATの協力を得て活気に満ちていた。

愛情たっぷりの“おいしい”英語

山本指導教諭の授業はクラスを半分に分けた少人数制で、オールイングリッシュで行われるが、これにスムーズに慣れるためのウォームアップとして「ビンゴゲーム」がある。上記の Motto も見事に体現している。文字通り数字の代わりに、配られたプリントの上段に挙げられた単語を、下段のマス目に無作為に埋め、生徒は山本指導教諭が音楽をかけながら英語を発音するのを待つ。もちろん、チェックが縦横斜めに5つ並べば「ビンゴ」である。生徒はその単語を先生の発音を真似しながら、チェックしては一喜一憂。傍から眺めても、この導入部で「つかみはOK!」と思わずのめり込む巧みさだった。

さらにビンゴの狙いは4つある。いつも決まった活動をする「安心感」、ゲーム要素の「楽しさ」、スピードによる「脳の活性化」、そして、英語を意欲的に話そうとする「雰囲気作り」。山本指導教諭は特に最後の狙いに力点を置いているようだ。「これで文法や語彙数を増やそうとは考えてはいません。生徒が楽しんで、“笑う授業”になれば十分です」と、その後も、ひたすら英語で生徒が自発的に話せるよう、チャットを折々に入れ込んでいた。

英語で考える感覚をつかませる、コミュニケーション英語



欲と実力を合わせ持った教員をどう集めるのかにも、管理職の手腕が問われる。“同声相和す”というところか、今の武蔵はよいフェーズに入っていると感じさせた。この気運が定着すれば、コンテンツ面ではさらなる充実が期待できる。

**大学入試改革に合わせ
英語力を蓄える**

中学では5教科をバランスよく学ぶとともに、高校の授業の一部先取りも行う。そのため高入生は1年間、別クラスに分けて授業を行う。一般の公立中出身者は、もはや同校の基幹となっているALにあまり馴染みがない。だから、1年かけて内進生について来られるようトレーニングをする必要があるのだ。そこが中学からしか入口のない、中等教育学校との大きな違いだが、もうしばらく授業の様子を見てみる。

短い昼休みを有効活用し、音楽祭の合唱練習に励む高3生。遅く清らかな歌声が体育館に響き渡っていた。

星恵梨香主任教諭と外国人AT（アシスタント・ティーチャー）による高1のコミュニケーション英語も快活なテンポで運んでいた。まず“globe”と“glove”の発音の違いを音声で確認させ、同様の単語がないか生徒に問いかける。つまりlone（孤独）は前者、love（愛）は後者で、hope（希望）は前者、hot（熱）は後者だ。構文としては疑問形の基本である“Can you tell me ~?”の活用を教えるところで、アメリカ出身のATはその後に、“how to get to Sesame street?”と、あの有名な子ども番組『セサミ・ストリート』のテーマソングを口ずさむ。

武蔵は都教委から英語教育推進校に指定されている。そこで毎年3月、高1を対象にオーストラリア語学研修（希望制だがほぼ全員が参加）をするが、その目標に向かい、中学生たちは英語学習を積み重ねていく。高橋校長曰く「こうした考え



中学校には給食があり、1・2年生は食堂で、3年生は教室で食べる。12年度より大泉高附属中と同じメニューの親子給食となった。

帝国ホテルの総料理長だった村上信夫は「この世で一番美味しい料理は、お母さんの作る料理だよ」とつねに語っていたという。「どんな高級食材を使っても、『想い』『愛情』を注がないと美味しい料理はできない」と。山本指導教諭の授業に対する Motto も同じ。テクニクに頼らず、まず想いが大切だという。それが十分に伝わってくる授業だった。

都立高校の教員は原則、同じ高校に6年間しか在籍できない。そして、特別な事情がない限り、最低3年間は同じ学校で勤務するのが常だ。基本は6年という期限内にどう成果を発揮するか。一期一会ならぬ一校一会の気概を持たなければ、流されてしまいそうなのだ。

また、このルールの中で公募制を通じ、高い意

中学では規律を、高校では制服もなく伸び伸びが武蔵スタイル

させる英語により、各種検定の実績も上がっている」とのこと。

「一昨年の1月に本校が初めて会場となり、中学1年生から3年生の希望者に英検3級・準2級の一次試験を実施しましたが、3級は71名、準2級は89名の応募があり、合格率は90%を超えていました。また高2では生徒一人一人が1台ずつタブレット端末を使い、セブ島の英会話講師とマンツーマンでやり取りをする、『オンライン英会話』も実施しています」

2020年度から実施される「大学入学共通テスト」では、これまでのセンター試験になかった記述式問題の導入と、英語では4技能（読む・聞く・話す・書く）を評価することが最大の改革事項として挙げられる。だが、大規模な集団に同日一斉に「話す」「書く」に関する試験を課すのは現実的には難しく、そこですでに4技能評価を行っている民間の資格・検定試験を活用することが提示され、18年3月末に参加要件確認結果も公表された。武蔵の英検等でのこの好成績は、大学受験においてもかなりのアドバンテージになる。

国公立ファーストの進路指導を徹底

また、武蔵ではキャリアデザインを柱とした進路指導も中1から行う。高橋校長は「ポートフォリオ（学習履歴ファイル）を活用した定期考査の自己分析もそのうちのひとつ。生徒自身に学習状況を把握させ、早い時期から具体的な将来の目標について考える機会を与えることで、学習意欲を高めています」と胸を張る。その種の書き込み型のまとめノートを駆使していくのも、同校の方法論のようだ。

「中学はそもそも記述の多い適性検査を通り抜けてきた生徒が集まるわけです。国公立、しかも現役志向が強く、中3の段階で90%を超えますね。だから、最後まで5教科7科目で学習させ、高校ではセンター試験に対応したカリキュラムを編成しています。毎年12月末には、高校2年はウィンターセミナーを実施します。また日頃から1・2年生は週1〜2回、卒業生の大学生からチュー

東大をはじめ主要大学の合格実績も軒並み躍進！

有名大学合格者数の推移

国公立大学名	2018年	2017年	2016年
北海道大学	2 (2)	3 (1)	5 (5)
東北大学	1 (1)	2 (2)	3 (3)
筑波大学	2 (2)	4 (4)	3 (3)
千葉大学	3 (3)	1 (1)	6 (5)
お茶の水女子大学	1 (1)	1 (1)	-
東京大学	13 (11)	6 (5)	11 (8)
東京医科歯科大学	2 (2)	2 (2)	1 (0)
東京外国語大学	2 (1)	1 (1)	6 (5)
東京学芸大学	4 (2)	4 (3)	8 (8)
東京工業大学	1 (1)	4 (2)	3 (2)
東京農工大学	8 (8)	5 (4)	4 (3)
一橋大学	6 (6)	3 (3)	6 (5)
横浜国立大学	5 (3)	1 (1)	2 (2)
京都大学	1 (1)	2 (1)	3 (3)
首都大学東京	7 (7)	7 (6)	9 (9)
他医学部合計	3	8	6

私立大学名	2018年	2017年	2016年
青山学院大学	14	10	15
学習院大学	2	4	3
慶應義塾大学	26	23	29
国際基督教大学	1	0	2
上智大学	8	12	9
中央大学	25	25	23
津田塾大学	15	4	6
東京理科大学	33	25	23
法政大学	28	18	34
明治大学	47	37	52
立教大学	16	13	20
早稲田大学	35	46	58

ターからの学習サポートも受けるんですよ」

高3はセンター試験前1週間という時期には、その予想問題を本番とほぼ同一時間で解く「センターマラソン」も実施する。センター試験は教科間の休み時間が長いと、どのようにリラックスをして過ごすかもポイントの一つ。そうしたオンオフの切り替えといったことにも注意を払わせる。

これら活動の成果は、東京都の学力調査や民間が行う全国規模の実力テストなどの結果にも表れ、毎回「学校別平均点でトップレベルの成績」を収めているという。そして、その結果として、ついには17年度は東京大学



統括校長の高橋豊先生



図書館にはカンヌ受賞監督のOB、是枝裕和さんの著書コーナーも。是枝さんは部活のバレーボールに没頭し、部長まで務める一方、「新潮文庫の100冊」を読破すると意気込み、傍らで映画も観まくって一浪したが、早大文学部に進んだ。

に13名（うち現役11名）が合格。しかも、合格者は1名を除き、全員が内進生だった。

「その高入生には現高校3年生を前に話もさせました。自身そうしていたと、『毎日の授業を大切にせよ』と言ってくれましたね。学校創設以来、現役合格が2桁に達するのははじめてだとOBの方達にも言われ、皆さん、大変喜んでくださっています。また、東北大医学部への合格を果たす

適性検査の傾向と対策

- 検査Ⅰ（国語読解作文）：
都立一貫校共同作成問題で、文章読解が計3問、最後の1問が作文。
- 検査Ⅱ（算数・社会・理科）：
大問3のうち2で社会科傾向の強い独自問題を出题。18年度は東京・日本橋周辺の江戸時代から現在を図表、会話を元にして分析し、記述する問題だった。
- 検査Ⅲ（算数・社会・理科）：
大2問とも独自問題。大問1は来場門の作成を題材に、2はシカの食害から食物連鎖、個体数のバランスへとつながる問題。いずれも設問を追うにつれ、解答には時間を要した。

卒業生には映画監督や俳優などクリエイターも多い

など、生徒の志望を最重視する姿勢は貫いています」
その他、国公立医学部に現役合格する生徒が例年、かなりの数に上る

ようになった。武蔵は早慶はじめ難関私大の指定校推薦枠も多いが、それを利用する生徒は少なく、やはり国公立ファースト。翻れば、中学での学習履歴ファイルの段階から、ゴールを強く意識させられるのが武蔵流と言えよう。

「受験は団体戦」とよく言うが、武蔵野の大きな風土の下、そんな意識を強く持てた生徒の伸びしろは大きい。カンヌ映画祭でパルムドールを受賞した、映画監督のOB 是枝裕和さんの作風に如実に現れる、ヒューマニティに溢れた「中身の濃い人材を輩出したい」とも高橋校長は語る。

是枝さんは早大に進むが、高校時代にはすでに映画監督という仕事に憧れを抱き始めていた。最近では俳優としての活躍が目覚ましい、舞踊家の田中浜さんも同校卒だが、東京教育大に進学したエリートでもあった。文武両道は名門校が共通して持つ素地だが、こうした多義的な生き方を尊重する風土も同時に醸されているのが、名門たる証だろう。

平成30年度説明会日程・内容（10月以降）

- ◎学校説明会（10月）
開催日：10月7日（日）・8日（月・祝）
対象：小学校5・6年生とその保護者
会場：都立武蔵高等学校附属中学校 1階視聴覚室
受付：各時間帯の30分前。
所要時間：全体説明50分
その後希望者には校内見学（30分程度）有。
・募集要項の配布、適性検査について本校独自問題の考え方の説明などを行う予定。
・1家庭3名以内の参加。小学4年生以下の児童・保護者の方は施設の関係で参加不可。
※事前申し込み不要。ただし、混雑回避のため、後日発表の指定された居住地域の日付（7日か8日）と時間帯に参加のこと。
- ◎応募説明会【願書配布】（11月）
開催日：11月24日（土）
対象：小学6年生の保護者（1家庭1名に限る）
※児童の入場は不可
会場：都立武蔵高等学校附属中学校 1階視聴覚室

受付：受付開始は各開催時間の30分前
・当日、会場にて「願書」を配布し、書き方や提出方法の説明（26日（月）以降は、経営企画室窓口で「願書」を配布）
事前申し込み不要。混雑回避のため、指定された居住地域の時間帯（後日発表）に参加のこと。

◎授業公開（10月・11月）中・高共通
※説明会等の他に以下の日程で授業公開を行う。
事前申し込み不要

開催日：
10月2日（火）、3日（水）、4日（木）
11月9日（金）、10日（土）、12日（月）
公開時間：9:00～12:30（12:00 受付締め切り）

※その他注意事項については同校HPを参照。
http://www.musashi-fuzoku-c.metro.tokyo.jp/site/zen/entry_0000006_00004.html